

### 代 恭 田 阪 動 始 交 外 惠 權 朴

大韓民国第一八代大統領、朴槿恵パク・クネの外交が始動した。五月初め、最初の訪問先、アメリカで韓国初のレディープレジデントは歓迎された。米韓同盟六〇周年を記念して両首脳は共同宣言を発表し、同盟の結束を確認した。北朝鮮への対応ぶりをみてアメリカメディアは朴槿恵をイギリスのサッチャー首相に例え、「アジアの鉄の女」と評した。記念すべきアメリカ議会演説で議員の心をつかんだ。首脳外交としてはおおむね幸先のよいスタートを切ったが、これから勝負である。五年間の任期のなかで、朴大統領は何に重点をおくのか。今回の訪米は新政権の外交ビジョンを発信する最初の舞台であり、朴外交の基調を知る手がかりとなる。

その特徴はまず、米韓同盟は依然として韓国の対外政策の基軸であるということである。朴政権は、前李明博イミムン政権の「グローバル・コリア」の成果を継承し、米韓同盟を二一世紀「包括的戦略同盟」としてさらに発展させ、米韓自由貿易協定（FTA）、核不拡散、平和構築、開発援助（ODA）などの拡充を確認した。韓国は環太平洋パートナーシップ（TPP）参加を表明していないが、米韓FTAが「アジア太平洋共通市場のひとつの重要なプラットフォーム」になると位置づけている。エネルギー協力の一環として（難航している）米韓原子力協定改定も最重要課題のひとつである。しかし、朴槿恵大統領自身の最大の関心は朝鮮半島と周辺地域（北東アジア）の平和と安定である。「グローバル」に傾きすぎた李明博外交の歪みを直し、韓国を取り巻く地域の安定に重点をおく。朴槿恵外交のキーワードは「信頼外交（Trustpolitik）」である。今回の訪米で「信頼」を確認した米韓同盟を土台に「韓半島の信頼プロセス」と「東

北アジア平和・協力構想」（ソウル・プロセス）を通して、韓国が外交イニシアチブをとりもどし、南北朝鮮ならびに北東アジアの信頼醸成・信頼構築を追求することである。

「東北アジア平和・協力構想」には中国と日本へのメッセージが込められている。朴大統領は米議会演説で「アジア・パラドックス（矛盾）」について言及した。アジアでは経済的相互依存は深化しているが、「歴史をめぐる差異は拡大し、政治・外交協力は「後退」している。この「パラドックス」をいかにマネージするか。アジアの新秩序を左右するという。そのために、アメリカを含む「北東アジアのパートナー」と、環境、災害救援、原子力安全、対テロ対策など「ソフトな問題」から北東アジア多国間対話プロセスを進めたいと提案した。当然、日中韓三国協力も重要な要素であるが、日中、日韓の不和のため、五月の環境大臣会合（福岡）は実施されたものの、首脳会談（ソウル）は延期された。しかしソフトな問題だけで済まないのが北東アジアである。北朝鮮の核・ミサイルなどハードな問題への対応は急務である。

朴大統領の首脳外交の次の焦点は訪中、そして韓中関係の格上げである。朴政権は韓米戦略対話の実現をめざし、戦略的トライアングルの強化を図ろうとしている。一方、日韓首脳会談の目処はたたず、日韓関係の漂流は続く。日韓ひいては日米韓トライアングルの戦略ビジョン、未来ビジョンは不透明さを増している。まずは日韓首脳「信頼」回復のために双方の対話と歩み寄りが必要である。日韓協力の土台となる価値観の共有、歴史認識の共有は欠かせない。

さかた やすよ／神戸外国語大学教授

専門、国際政治学。

日韓フォーラム、日韓協力委員会等に参加。延世大学（韓国）現代韓国研究所訪問研究員（2008～09年）。著作『朝鮮半島の秩序再編』（慶応義塾大学出版会）、『ゼロ年代 日本の重大論点』（柏書房）、『アジア太平洋の安全保障アーキテクチャ』（日本評論社）等。